

今日のみことば

□ 3月4日(日) ルツ記 3章

ベツレヘムに帰国したナオミは、一緒に帰国したルツのことを気にかけ、ボアズとの出会いを通して、神の祝福を招き受け入れたいと願った。

□ 3月5日(月) ルツ記 4章

ボアズはルツを妻と迎える決心をした。ナオミは今や神のご計画を知った。ルツは幸福な妻となり、母となった。しかもなおナオミを愛してやまなかった。

□ 3月6日(火) サムエル記上 1章

この書は、神の力によるサムエルの奇跡的な誕生の物語で始まる。神はうまずめハンナの祈りを聞かれ、サムエルが与えられた。神が祈りを聞かれると言う事実の証拠とされた。

□ 3月7日(水) サムエル記上 2章

ハンナの祝福に対する感謝の祈りを聞きます。サムエルの祭司エリの助手として仕えますが、その息子たちの悪行は神の怒りにかうこととなります。

□ 3月8日(木) サムエル記上 3章

サムエルはエリを寝起きを共にすることを通して、神を礼拝することを学んだ。神が名指しでサムエルを呼ばれ、神がご自分を示されたので、サムエルは神を知った。

□ 3月9日(金) サムエル記上 4章

神の箱は、イスラエルの最も大切な所有物であり、幕屋の中心であった。神の臨在の象徴でもあった。しかしイスラエルの軍隊は破れ、神の箱は敵の手に渡ってしまった

□ 3月10日(土) サムエル記上 5章

ダゴンはペリシテの主神であり、イスラエルの神も仲間に加えようと神の箱を奪ったが、間違いであってことに気づき、これを元に戻すことにした。

ろ ぼ No. 1857
2018年 3月 4日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

マタイ 26:14-16

そのとき、十二人の一人でイスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところへ行き、「あの男をあなたたちに引き渡せば、幾らくれますか」と言った。そこで、彼らは銀貨三十枚を支払うことにした。そのときから、ユダはイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。

イエスの十字架の周りにいた人たち。一番気になる人物は、イスカリオテのユダではありませんかイエスを裏切って祭司長たちに売り渡した人物ですから。いろいろな裏事情はあったでしょうし、推察されることは多々あるようですが、イエスはそれを承知しておられました。イエスはそれを回避されませんでした。真正面からそれを受け止められました。私はそこに秘められた主のメッセージをしっかりと私も受け止めさせていただかねばならないと思っています。主イエスは御心に生きておいでになったと言うことです。御子イエスです。この苦悩から回避する道はいくらでもあったと理解します。しかしイエスは、公生涯を始められる準備の時から、それを生きて

おいでになりました。忘れさせていただくことが出来ません。それがイエスでした。本当にイエスは、導かれるままを生きておいでになりました。ゲッセマネの園で祈られたイエスに、私はイエスの思いをしっかりと聞かせていただくのです。「『父よ御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。』」〔すると、天使が天から現れて、イエスを力づけた。イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴のように地面に落ちた。〕」(ルカ22:42-44)とあります。イエスは預言が成就するため、と言う思いではなく、しっかりと私たちが聞かせてい

ただねばならないイエスの姿をそこに見させていただくのです。そこにユダの裏切りがあります。

ユダはどのような思いでイエスを裏切ったのでしょうか。彼もイエスと行動を共にしてきた弟子の一人、しっかりとイエスの思いを受け止めてきた一人です。その彼がイエスを、祭司長律法学者たちに売り渡したのです。何がそこにあったのか。推測はいくらでもすることが出来ます。ユダは「そのころ、イエスを裏切ったユダは、イエスに有罪の判決が下ったのを知って後悔し、銀貨三十枚を祭司長たちや長老たちに返そうとして、「わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました」(マタイ27:3-4)と自分の行為を悔いました。イエスをして「人の子は、聖書に書いてあるとおりに、去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかった方が、その者のためによかった。」(マタイ26:24)と言わしめましたが、そのことをも神の御心にあるものであることを知るとき、しっかりと私は、神さまの御心が何であるかを問わせていただくのです。私は、私たちが知りえない神さまの御心とは何か。私たちを救いに導くことを置いてほかに、神さまの御心があろうはずがあり得ません。どこまでも神さまは私たちが、罪を贖われて帰ってくることを願っておいでになるのです。そのために御独り子イエスを送られたんではなかったのでしょうか。イエスの十字架への歩みは神さまの御心の中にありました。イスカリオテのユダの行動もまた同様です。はじめっから神さまはすべてを導いておいでになりました。そしてそれは愛に満ちた行動でした。私たちに、そのようにどうしても理解できない出来事も、愛を持ってなしてきてくださったことです。それを受け止めるのがわたしたちの信仰です。

次週の聖書・説教

マルコ14:27-31 「知らない」とは言わない

《 聖書の学び・祈祷会 》

マルコ 14:3-9

良いことをしてくれた

私たちは神さまが、心から喜んで受け入れてくださることが何であるか、なかなか知りえません。そのために思い違いをして叱責を受けたことしばしばです。そしてそれは人間私たちの持ち味だと思っています。私はそれを失敗とは言わないことにしています。神さまの訓練だと心得させていただいています。

イエスの頭に香油を注いだ女性の行為を、弟子たちは非難しました。貧しい家庭での、一見非常識に見える女性の行為の非難でしたが、イエスの見方は違いました。あなたはそれをどう受け止められますか。おそらくあなたのそれが常識的な判断だと思いますが、イエスには違いました。この女性の神さまとの向き合い方と、弟子たちの神さまとの向き合い方の大きなずれがそこに現れたのでした。それは自ずから明らかなことでして罪の深さの自覚にもよることです。私たちはしっかりと自らを見つめることが出来なければなりません。



Read God's Word.